

以迄之接四年八月十五日

赤川村軍人優待慰

勞集會所用座席上ニテ

招待ノ軍人々對シテ招待

ニ為演說ノ要領

一我軍等ノ敬慕スル軍籍

在ル諸君其時時愛ニ身

勞ノ多ク是カヲ耐心スル

本日は熱湯ヲ招セシコ

トシテ愛見者熱シク厭ハセ

ラレス湯除席アリシ我

邊長所ナク耐ハサレシ

一諸君忠勇表列一國

正并リノ事ハ喋クシ

サレモ客集其時時愛

列西軍隊請フテ

我フ王我ニ申

是ノ實ニ見者者熟ニ王殿ニセ  
ラレスヨシ降序アリニ我ニ  
邊長能ク之耐ニナルカニ  
ナリ

一 諸君忠勇表列ニ國邊ニ  
臣并リ、車ハ喋々ニあセ  
サレモ、客来ニ法ニ愛私ニ  
付テ、列玉軍隊請フテ  
我フ王我ニ帝玉軍隊ノ  
義烈ニ勇我軍隊ノ敵  
滿ナリ、列玉之ヲ考テ、諸  
君止ニス、於テ、過ニス、六  
年我勝、本ノ果ニ言フ  
尚宜揚、カニ到ルニ、  
本ノ果ニ言フ、  
カニナリ

一 諸君涉招待ニ又レモ  
何ノ風情ニ至テ、控酒  
粗者十カ、カモ止、カナリ

我フ王我立帝也軍中隱ノ  
義烈ノ勇我軍律ノ嚴  
萬中ノ一ハ列王之ヲ考誇  
三三止スス然テ於テ過且七六  
年我勝ノ本業也  
尚宜揚也到レニマ  
未彼亦産爾ノ耐ク  
升レナリ

一  
諸君湯招待ニ又レモ  
何ノ風情ヲ十ノ程酒  
租者十カヲモ出サ  
愿ハレメ差上レリニ候リ  
女子身置コト出候備  
右上ケウレコトト備  
格者仕也

拜啓

容年六月清國變亂一件付本村より從軍相成  
久各軍人諸君末に本月十五日午後五時嘉加  
川市明正寺に於て慰勞ノ為メ官會相催共  
て御飯料十から申身下招待員として御出陽  
相成共様御依頼致度為其書甲に於て御  
通知身御親事上矣也

明治三十四年八月十三日

報効會幹事長  
藤津宗之助

報効會幹事

本園涼三郎殿

客年北清事件ノ為メ渡清セシ軍人悉皆帰  
郷致シテ付萬端御協議致度儀有之旨  
来ル八月四日午前九時本村役場ニ御出頭  
下度就テ最終ノ御協議ニ付萬障御  
操合御出席下度右為メ御通知如比也  
明治世四年七月三十日

藤津宗三助

報効会幹事

本石原三郎殿

豫備 示七邑

請

現候

示八邑

請

神元

豫備

現候

水上辰彦

早内藤市

藤澤新麻

藤澤秀吉

松下七市

坂村巳之助

森永嘉三

森永平三

榎久源左

榎久鉄次

山口縣吉敷郡嘉川村後地

全 出 三 三









大野南亭郎  
山崎長清  
西松長清  
伊豆長清

軍人諸氏言



軍人救助スル者人名在ノ如シ

家被三人

身妻 長女

生田七郎在工門

全 三人

母弟 姉

長尾宣市

全 五人

母弟三人 妹

岡村松次代

全 九人

父母兄弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟

久保左助

全 二人

母 弟

阿藤治郎兵衛

全 五人

父 祖母 母 姉 弟

國吉良被

全 三人

父 妻 長男

中村竹道

斗 七名

家被 男 十三 女 十七 三十名

救助金支給方法在ノ如シ

一 救護額 軍人姓名ニ付月別金壹圓五拾

銭トス

一 救護金 役場ヨリ一時操替置キ毎月救護

家被ノ贈與スルナリ

但贈與 明治三十三年八月分ヨリ支給ス

在明治三十三年七月廿三日決定ス

本村報効會手續券四項依り幹事  
撰年セシ九ノ拾名當撰セリ

本間源三郎  
石津松太郎  
氏永友蔵  
田島良三  
藤津宗三助  
井本権十  
何藤勝次

大野百太郎  
山崎長市  
西村浩

明治三十三年七月廿一日

入

三橋 嘉平

七月

廿二日

報効

合言ノ

野交

本及廣

セリ

### 嘉川村報効旨設立手續

- 一 本會 嘉川村報効旨ト稱ス
- 一 本會 自的 本村人ニ從軍現役豫備役後備役將校下士定兵卒ヲ募集 慰問スルコト
- 一 本會 本村人ニ食困ル豫備役後備役出軍者又現役者ノ家族ヲ救護スルコト
- 一 本會 幹事 拾名ニ由リ本會一切事務ヲ取扱ス 且 幹事 拾名者ヲ互選ス
- 一 本會 幹事 役軍者ノ慰問トシテ 贈進スル金 負及役軍者ノ家族狀況ヲ調査 救護科 支

合類其他本會ニ関シテ 費金ヲ收支ヲ查手ル

一 本會 元ノ目的ヲ達スル為メ 本村内有志者ヨリ 義捐金ヲ募リ集メ之ニ充テ

一 本會 幹事 本會義捐金收支ヲ明瞭ニ記帳ス 本會ハ 備定ス

一 本會 事務所 嘉川村役場外ニ設置ス



報効

新門村軍人優待會設立有定  
 國府設心ヲ取送シ其妻・有當興ニ望ムル下ノ急務ニシテ  
 應召軍人困窮家族ヲ救ヒ護スル者良ニ策ヲ得ルコト  
 上儀ナリ抑々田清岡・上野田・西後即義和團等ノ  
 札ヲ惹起シテ其ノ結果ニ高岡・依新岡時代ニ於テ其ノ  
 優待ノコトヲ定ムル他國ノ駐劄人々今下村ニ危害ヲ加フ者  
 二村ノ古界別國ノ辰田氏保護ノ高ノ咄嗟ノ裡ニ軍務ノ派  
 申進ニシテ其地ニ於テ陸軍陸隊ノ派遣ニ今又萬里遠征  
 向且ツ然リ具儀ニ海軍陸隊ノ派遣ニ今又萬里遠征  
 輸送スルノ已ニ得ルコトヲ示シテ其ノ現役軍人ノ加給  
 備後備將校下士兵卒ニ至ル迄有テ召集ノ命ヲ得ル  
 唯下ニ彼軍人ノ自ラ遠ク異域ニ偏スルコトヲ強  
 兩傍憐れ馳驅シ努力シテ其ノ敵ヲ奮メテ其ノ功  
 家ノ為メ身ヲ犠牲ニ供ス愛ヲ同胞ニ與テシテ其ノ  
 又憐れ念ヲ生カサシメテ其ノ功ヲ其ノ功ヲ其ノ功  
 今而斯ノ如キ同胞名ヲ得ル其ノ功ヲ其ノ功ヲ其ノ功  
 二不封賞ニ封シテ豈迂闊ニ有過ニテ可ナラヤ其ノ功  
 相謀リ孫赤村ニ於テ軍人諸君ノ為メ優待會ヲ設  
 以テ諸氏ニ傍若無人ニシテ其ノ功ヲ其ノ功ヲ其ノ功

明治三十二年七月廿三日



五務書

七月

廿五日

軍令

優待

モト

本村

テ有

者即

村令

悉

悉

悉

トナリ

ハ兵

者

編

シ

嘉州村軍人優待會設立音書

國民の敵心ヲ振起シ士氣奮興シ深ク刻下急

務ニ志在軍人困難家族ヲ救護ス等果テ策爲

シト然レテ柳今回清國ニ首魁匪徒即チ共和國

力騷乱ヲ惹起シテ以來高城ニ恰モ軍國時行ニ於ケル

カ如ク紛擾スルニ至リ延々他國ノ駐劄人ニ今猶ハ危言

カトス竊ニ於テ吾界引國ニ居留民保護ノ爲メ

内ニ軍務ニ阻害スル非シテ護シテ我々帝國ニ於ケル

干城名軍人然レ氏尙且然ル景ニ海軍陸軍戦場ニ阻害

シテ又遂ニ陸軍ヲ輸送スル已ニ海軍ニ至ル本村

編

シ

於此現役軍人、多瀕豫備、後備、將校下士兵卒、  
 至ハ正眷、其果命、接シ、推シ、波軍人身ノ遠ク、  
 盟域、果露、幸願、ラ、備、ル、ン、ニ、ス、彈丸、兩注、向テ、  
 馳驅、努力、シ、挽、マ、ス、屈、セ、テ、邦家、ノ、為、ノ、身、ノ、犧牲、ニ、供、  
 ス、正、シ、御、黨、々、々、之、ラ、何、ク、傍、觀、坐、視、シ、可、ナ、ラ、シ、ヤ、  
 眞、シ、其、ノ、眞、國、也、殊、ク、救、護、シ、没、軍、者、々、々、願、  
 負、テ、絶、々、決、意、有、進、國、難、ク、向、テ、以、テ、其、ノ、功、勇、ノ、顯、  
 ハ、カ、ル、ト、シ、力、ヲ、致、サ、ル、可、カ、ス、功、同、志、相、謀、リ、我、嘉、加、川、  
 村、ニ、於、テ、軍、人、諸、氏、ノ、爲、報、効、會、ヲ、設、立、シ、以、テ、其、ノ、  
 功、業、ヲ、慰、セ、ン、ト、ス、所、以、ナ、リ、

明治三十三年七月二十三日

發起者

田邊 良三  
 藤津 宗三助  
 本間 源三郎  
 石津 松太郎  
 氏永 友蔵  
 井本 権十  
 伊藤 勝次  
 大野 百太郎

山崎長市  
西村浩